

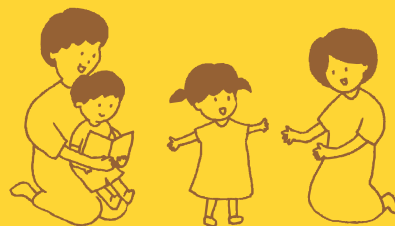


\災害時に備えて/ 平時からの 協働プラットフォームで 支援の輪をひろげませんか？



南海トラフ地震等に備え、私たちにできることを
平時から一緒に考え、行動しませんか。

賛同いただける方や関心のある方は
下記までお問い合わせください。



令和6年能登半島地震被災地での炊き出しの様子

みえ市民活動ボランティアセンター

三重県津市羽所町700アスト津3階

電話:059-222-5995 Email:center@mienpo.net <https://www.mienpo.net/>

三重県では災害時、行政、社会福祉協議会、NPO等の三者連携により「みえ災害ボランティア支援センター」を設置し、県内外の被災者を支援してきました。

近年の災害では、多様な被災者ニーズに対応する、様々な分野のNPO・ボランティア団体に加え、企業・士業・大学/学校などのより多様で幅広い支援主体の活動が目立っており、平時からつながりや顔のみえる関係をつくることが重要となっています。

そこで、令和5年度内閣府のモデル事業を受託し、「南海トラフ地震に備えて～平時の被災者支援協働プラットフォーム」についての検討を行い、提案書を作成しました。



◀提案書はこちらから
ご覧いただけます

三重県
社会福祉法人三重県社会福祉協議会
特定非営利活動法人みえ防災市民会議
特定非営利活動法人みえNPOネットワークセンター



平時の被災者支援協働プラットフォームのめざす姿

**被災者が
主役**

復興の主役は被災者自身です。一人ひとりの被災者が自分の望む復興に少しでも近づくために何ができるか、この課題に主体性を持って取り組む支援団体が集います。

**自分の限界を
支援の限界に
しない**

被災者それぞれが抱える多様なニーズに応えるためには多様な支援が必要であり、ひとつの団体ですべてに応えることはできません。自分の団体では支援できない課題に直面したとき、そこで立ち止まらずに解決できる団体につながります。

**支援団体と
受援団体が
つながる**

多様なノウハウや資機材、人材を持って困りごとを抱える被災者を専門的に支える力を持つ支援団体と、平時から被災者や地域に関わり、災害時にも支援団体を受け入れて被災者に息長く寄りそう団体とつながります。

**積み上げてきた
取組を活かし
高めあえる**

災害に備えて平時から多様な主体をつなぐ取組は県域でも市町などの地域でも、またそれぞれの分野やテーマでも、今まで数多く取り組まれています。そのような取組の成果や課題をお互いに学びあい、連携を深めます。

**多様な価値観を
認めあえる**

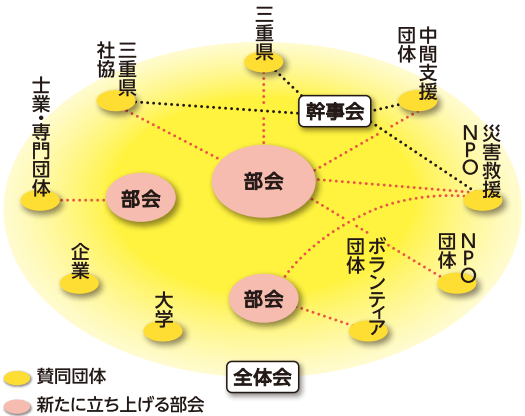
多様な支援を実現するには多様な価値観が不可欠です。すべての被災者がそれぞれ必要とする支援を受けて望む復興に近づくためにも、支援団体同士がお互いの価値観を認めあえる関係をつくりまします。



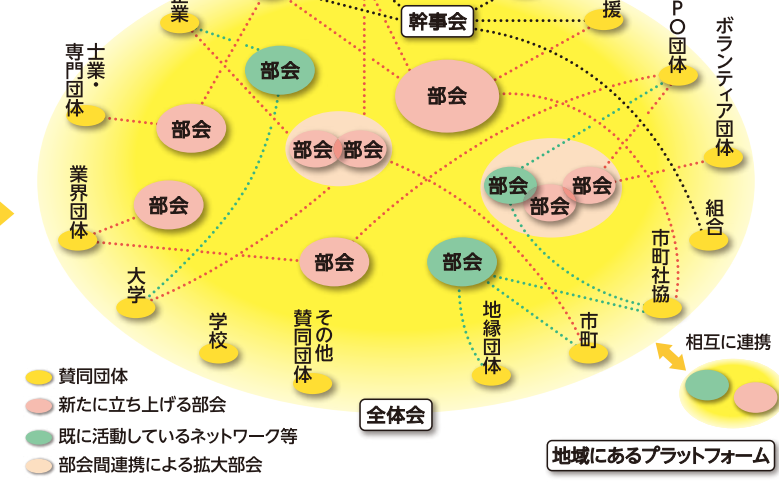
**官民が協働し
三者連携を
実現する**

法や制度に基づいて活動する「行政」と、平時から地域福祉やボランティア活動の支援を担う「社会福祉協議会」、自己資本などを原資に自己決定で活動するNPOやボランティア団体、企業などの「民間団体」では取組の優先順位や意思決定の手順なども異なります。しかし、被災者はいずれの支援も必要としており、官民が協働することで支援の質も高まることから、三者連携を実現します。

当面の目標



将来の目標



活動内容

賛同団体間の相互交流・相互学習

賛同団体の相互理解、機能強化のための研修、学習会を実施します。多様な分野の被災者支援の取組を理解し、連携協働の可能性を探します。



他県との関係性強化

他県との情報交換の場を持ち、学びあいます。他県の視察を行い、学びあいます。



多様な支援主体の参画

「平時の被災者支援協働プラットフォーム」の周知・啓発により、県内の災害支援等を行う団体へ参加を呼びかけ、多様な主体の参加を促進します。



多様な部会の設置、運営

多様な被災者ニーズに対応するための、賛同団体の専門性やスキルを活かしたテーマ毎の部会を設置します。多様な支援主体の参加を促します。

